

【動画内の問題】 次の文の主旨として、最も妥当なものはどれか。

資源のほとんどない日本に住む我々は、原料資源を海外に輸入して加工製品として輸出し、差額を生活の糧としている。つまり輸入した原料の一部を残して国内消費を賄っている。原料資源を持っている国より大きな負い目をもって、生計を立ててゆくべく運命づけられている。つまり本来余計に働かなければならないということである。より積極的に新しい科学技術を活用して、他所にない、買って貰える商品を作らなければならぬようになってきている。

石油が自分のところであれば、心配なく火力発電所を作って電気を配って工業生産させ、生活にも利用して貰える。ところが、我が国は石油を他所から買わなければならないから、価格変動に何時も一喜一憂し、安い電気の作り方を考えなければならぬくなる。理由もなく危険の多い原子力発電などに活路を探す馬鹿はいない。

電気代が高くなれば、それはそのまま製品製造の原価に反映する。せつかくの月給も、直接電気料金が値上がりするだけでなく諸物価も値上がりするから、実質的に相当目減りする。だから担当者は必死になって安い電気を確保しようと努力する。

もし何かを見落として、結果的に手抜きをしたことになれば、大変なことになる。しかし、あまりにも心配性になったら使えない。あるいは安全係数を大きくとりすぎれば、高価になり効率を低下する。高い電気を使わなければならぬなくなる。

だから日本ほど危険と効率との間の細い道を歩まなければならぬように運命づけられた国はないのである。

出典：西澤潤一「私のロマンと科学」

1. 資源のほとんどない日本に住む我々は、原料資源を持っている国より大きな負い目を持って、生計を立ててゆくべく運命づけられている。
2. 我々は、より積極的に新しい科学技術を活用して、他所にない、買って貰える商品を作らなければならない。
3. わが国は石油を他所から買わなければならないから、価格変動に何時も一喜一憂し、安い電気の作り方を考えなければならない。
4. 電気代が高くなれば、せつかくの月給も実質的に目減りするから、担当者は必死になって安い電気を確保しようと努力する。
5. 日本ほど危険と効率との間の細い道を歩まなければならぬように運命づけられた国はない。

【復習問題】 次の文の主旨として、最も妥当なものはどれか。

上司が、仕事に対してどんな姿勢で臨んでいるか。会社に対してどう考えているか。そうした大きな問題から、具体的な仕事の進め方に至るまで、その一挙手一投足を部下は見逃すまいと見ている。果ては上司の口調やクセまでも真似てくる場合もある。そして興味深いことに、悪い点ほどすぐ真似をする。部下は上司にとって自分を映す鏡である。そのことを肝に銘じておきたい。

部下は見えていないようで、しっかりと上司を観察している。「もっとやる気を出せ」と言えば、部下は心の中で「あなたはどうですか」とつぶやき、「公私のケジメをつけよ」と言えば、「あなたはキッチリしていますか」と反問している。だから、上司の出勤が早くなれば、部下も早く出勤するようになる。上司の態度が部下に反映するのである。部下を批判する前に上司は自らを省みなければならない。

(江口克彦「いい仕事の仕方」による)

1. 部下にとって大きな問題は、上司の仕事に対する姿勢、会社に対する考え方である。
2. 部下は上司の具体的な仕事の進め方について、一挙手一投足を見逃すまいと見ている。
3. 部下は上司にとって自分を映す鏡であり、上司の悪い点ほどすぐ真似をする。
4. 部下は見えていないようで、しっかりと上司を観察しており、心の中で上司の言動に反問している。
5. 上司の態度は、部下に反映するので、上司の出勤が早くなれば、部下も早く出勤するようになる。

☆復習問題の解説☆



ポイント

1. 具体例・仮説は読まない！
2. 結論は最後に出る！

STEP1：問題文の確認

「主旨として、最も妥当なものはどれか」

→筆者の1番言いたいことは何か？

STEP2：本文を読む

ポイント1を使って読むところ、読まないところメリハリをつけて速く読もう！

※今回の問題では、2段落目は部下と上司との具体的なやりとりになるため読み飛ばして大丈夫です。よって、答えは1段落目のどこかにあります。

STEP3：答えを探す

ポイント2を頭に入れて、選択肢を見る！

※今回の問題では、選択肢4・5は2段落目の具体例に書かれていることなので答えにはなりません。

→選択肢1・2・3の中で最後に書かれているのは、3番です。

よって答えは3番！

※他にも「興味深い」や「肝に銘じておきたい」と決め手になるワードが前後にちりばめられています。